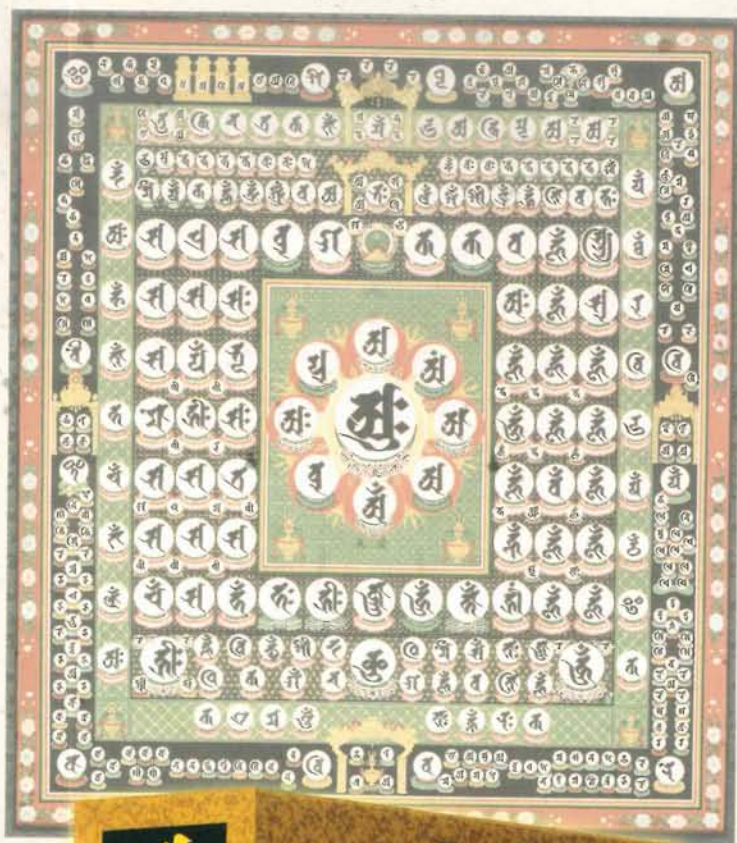


真言は不思議なり……一字に千理を含む……

三十余年の時を経て新たに刊行！



新 梵字大鑑

【全二巻】

種智院大学密教学会 編

法藏館



刊行の辞

新・梵字大鑑のお勧め

種智院大学学長
大本山中山寺管長

村主康瑞

人はある経験値や学齢を過ぎると、今さら人に聞けないことが多くなる。また、聞いたりおたずねすることに吝かたない人であってもすぐにはその人に会えるとは限らないことのほうが多い。教養や知識が増すことにこうした事がらが多くなるのは私だけではないと思われまます。

今般發刊されます『新・梵字大鑑』は旧版の發行が三十余年前と一世代前になるわけでありまして、新世代の利用の方はもちろん、旧世代の方々にもさらにわかりよく、また、美しい、はっきりした表現に改められました。特に旧版のものには無く不便な点となっていた刷毛書き書体を加えており、実用性はさらに向上したのではないかと思っております。

また、読み方もできるかぎり、多く実用性をもたせたものになっておりますので、多くの研究者にも座右の書の一つになり得るのではないかと考えます。これは私自身、梵字の読みについては理解して文章中に梵字をサラリと使っているが初心の方や使いなれていない方でもいきなり種字が出てくると違和感をおぼえるもので、文章の本意をそがれることが多いものです。それは今日のビジネス文章や各解説文章中に見られるカタカナ用語やローマ字用語に似た所があります。

用語を調べるのに辞書が必要なことはたびたびですが、辞書的なものを読むのにまた辞書が必要では、その本意をつくすことはできません。そのため、法藏館の編集部の方々はご苦労をかけ、この版ですべてをつくすことは出来なくとも、また次の版でさらに良くなることを考えつつ刊行の運びとさせていただきます。

こうしたものは、世代を継いで完成されて行くのであると確信しております。ぜひとも皆様、お手に取り、座右の書として愛蔵して下さいますようお願い申し上げます。

〔目次〕

上巻…実践編

第一編 梵字の書法

- 第一章 梵字書体の変遷／第二章 字母表と解説／第三章 字母の書き方と解説／第四章 朴筆（刷毛書き）梵字の書き方／第五章 悉曇十八章

第二編 種子の解説

- 第一章 種子の意義と種類／第二章 種子集と一覽表／第三章 種子と瞑想

第三編 常用真言・陀羅尼の解説

- 第一章 陀羅尼の解説／第二章 梵讀の解説／第三章 諸尊真言の解説／第四章 行法真言の解説

下巻…資料編

第四編 梵字の歴史

- 第一章 印度における梵字の成立／第二章 中国における梵字の展開／第三章 日本における梵字悉曇字の展開

第五編 法会儀式の梵字

- 第一章 廻向・供養／第二章 祈禱

第六編 古遺物に現われた梵字

- 第一章 石造物／第二章 法具／第三章 胎内納入物／第四章 曼荼羅／第五章 梵火／第六章 絵画

第七編 梵字悉曇資料

推薦のことば

『新・梵字大鑑』のすすめ

真言宗豊山派管長
総本山長谷寺化主

加藤精一

●弘法大師は御著『般若心経秘鍵』の中で、「真言は不思議なり……一字に千理を含む……」と述べておられるように、真言密教では一字の梵字がほとけさまの仏格を表したり、一巻の経典の内容を一字の梵字で表したりする。したがって、梵字を書く人も、それを読む人も、きわめて深い理解と広いこころを持たなければならぬ。それが真言僧たるものの基本的な教養であり常識なのである。

●このたびの『新・梵字大鑑』は、まだ内容を見ているわけではないが、宗祖がいわれた「一字に千理を含む」という意味を理解し、体得するよすがになれば、真言僧にとってよき手引きになるであろう。出版を心より祝う。

時代を超えて受け継がれる梵字

妙法院門跡門主

早稲田大学名誉教授

菅原信海

●梵字は、墓碑・板塔婆・宝塔など、身近なところでみることができ。そしてその梵字は、多く仏菩薩の種子を表すことが多い。また、仏典では陀羅尼・真言・消災招福呪文・護符などに用いられている。日本に伝来したこの梵字は、悉曇文字であった。この悉曇文字は真言の空海や天台の円仁の諸

先徳によって研究され、時代が降るに従って、書道と同じように、悉曇文字の書に高い芸術性が加わり、美を競うようになった。

●この梵字の書き方には悉曇切継という筆法があつて、筆の入れ方や筆順が定められている。しかもこの筆法には、切継伝授が行われ、師資相伝の筆法が受け継がれてきた。新刊の『新・梵字大鑑』は、筆順と筆の入れ方を解り易く解説していて、専門家にとつても座右に置くべき必須の手本であり、また初心者にも役立つ良き手引書である。

宇宙気の渦に巻きこまれる……

グラフィックデザイナー

神戸芸術工科大学名誉教授

杉浦康平

●毛筆、あるいは朴筆（もとは筆ペン）で書き記される「梵字」。インドで「シツダム」と呼ばれるこの書体は、とりわけヘラ筆でふちとられると、鮮やかな律動感に包まれる。なぜならば、インドの文字は僧侶や書家の手で記されるとき、書き手の全身に湧きあがる音の響き―インドでは呪力こもる「マントラ」と呼ばれる―に支えられ、その一点一画にただならぬ宇宙気の流動が吹きこまれているからだ。

●呼吸を整え、心身を没入し、祈りをこめて一息に梵字を書きあげる。氣迫に満ちた律動の渦の誕生である。

●この二巻本には、趣きを異にするさまざまな梵字が、ところせましと並んでいる。ページを繰るたびに文字たちが発する靈気のざわめき、交響する声の響きに包みこまれ、ただならぬ梵字の魅力に浸ることができるだろう。

旧版が刊行されてから三十年以上が経ち、研究も大きく進捗したことを受け、最新の成果を反映させるよう全面的に改稿。

近年の印刷技術の向上により、全編を通して当時では表現できなかった梵字の持つ美しさにこだわり、できる限り新たに書き起こしている。

【改訂新版の特色】

- 一 使用する際の便を図り、実践編(上巻)と資料編(下巻)の二冊に分冊。
- 二 使用頻度の高い梵字については、新たに刷毛書き梵字の書法も増補。
- 三 全面的に、より見やすく、レイアウトを一新。
- 四 悉曇十八章の全ての文字に、新たに読みがなを付した。

第二節 刷毛書きの実際

江戸時代の刷毛書きの大家、澄禪師は『梵書法帖』と題した刷毛書梵字の書帖を多く残している。

いまここに掲げた、十三仏各尊種子や光明真言等は、澄禪の真筆を基本として筆者が書写したものである。いわゆる澄禪流刷毛書き体である。

【十三仏種子】

【不動明王】カン(カーン)han



ア字の書き方

中支音 ア
南支音 ア
ローマ字表記 a
字義 本不生不可得

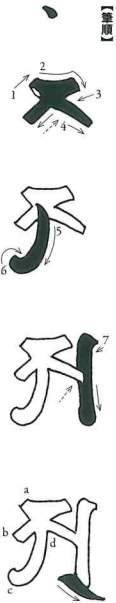


手本となる字母は、
全て新たに書き起こした。

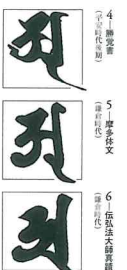


筆順の説明も
分かりやすく
書き改めた。

- 筆順① この点はア字命点(略して命点ともいふ)点(発心点以下命点といふ)、梵字を書くときは必ず打たねばならない。書き方は、自然に筆を下ろして筆を引く。
- 筆順② 命点を打つ。筆順①そのまゝ筆を筆先を筆先を押し上げ(矢印)、横へ引いてしっかり押さへ(矢印)、次に横画のほうへいくらか斜めながら(角3)、筆先が命点と接するように左斜め下へ押し出し軽く筆を止め、その筆を戻して斜画をなすように横画の中心あたりで筆を止め(点線矢印)、軽く押しさす(右斜め下へ引き下げて筆を抜く)矢印。
- 筆順③ 横画の中心あたりから筆を入れ、左斜め下へ引く(矢印)。このとき筆先だけでなく手首も一緒に押し下ゆき、一旦筆を止め、筆先をおさめながら筆を抜く(矢印)。
- 筆順④ 自然に筆を下ろし(命点ではないが、打つ要領は同じである)左斜めに少し筆を引く(矢印)、筆を止める位置を見定めてから一氣に引き下ろし、引き終りは内側へ軽く筆を押しつける。筆順②の右斜め横の終りと縦画一画は交わるのがよい(点線矢印)。
- 筆順⑤ この点を被に命点といふ。筆順④の終画へつかけ、筆を下ろし(このとき筆先は向こうに倒れる逆筆で、筆が上を向くような形となり、筆先は下側を通るいくらか右へ引き気味に斜め下へ波形に引き下ろし、腕を開きながらゆっくり筆先をおさめて筆を抜く)。
- ア字全体の要領は、a, b, cを因のようとする。dの部分が細いならぬよう注意すること。
- 参考書は古代の書き方で、且梵字などの書体へみられ、現在は刷毛書き梵字に伝承されている。

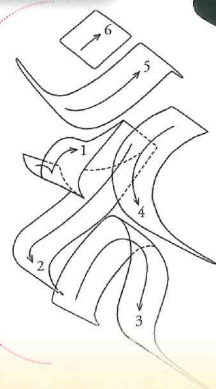


異なる筆順や書体に
ついては、参考筆順・
参考書体として紹介し、
より充実させた。



筆順も図解で
丁寧に説明。

五十一字母については、
全て刷毛書きを加えた



新 梵字大鑑 【全二巻】

予約受付中

■ 定価（*分売不可）

本体四〇、〇〇〇円＋税

■ 体裁

B5判・上製函入・各巻五〇〇頁

■ 初版限定付録

DVD【梵字の書き方】



ISBN:978-4-8318-7021-6 C3515



法藏館

六〇〇八一五三 京都市下京区正面通烏丸東入

電話＝〇七五（三四三）〇四五八

ファックス＝〇七五（三七一）〇四五八

<http://www.hozokan.co.jp>

E-mail: info@hozokan.co.jp



◎ 筆法がわかりやすいよう、

二方向より撮影。

ダイジェストとして実用的な

種子について、刷毛書き書体の

筆法を収録。

初版限定版。

新・梵字大鑑 【全二巻】 分売不可

取扱書店

セット申し込みます。

ご住所

お名前

お電話/FAX

申込書